

日本透析医会に期待すること

鈴木信夫

日本透析医会が創立して、5周年を迎えたことを心から喜ぶとともに、医療費抑制の状況下で透析医療が円滑に行われるために、その指導性を期待している。

以前は、保険の改訂に際して厚生省と特定の人が主に交渉をしていたが、前回の保険改訂には、透析医会の担当理事が直接に厚生省の担当官と交渉されたと聞いている。また、日本透析医会発行の透析マニュアルが保険診療上参考にされるようになった。日本透析医会が保険改訂に厚生省との交渉の窓口として認められるようになったことは、透析医会の設立目的の1つであり、今後大いに期待するところである。そのためにも、保険診療上の不満の調査等を事前に充分行って、対応して頂きたい。また、昨年保険改訂で検査のマルメが導入されたが、今後更にマルメの枠が拡大されることが予想される。そのために、マルメの除外事項と人件費増のスライド制をきちんと確立して欲しい。

・医療費の総額の増加が期待されない現状では、透析医療に配分されるパイも決まっている。透析医療では、急速な進歩がみられ、新しい薬品の開発、機械の改良がなされ、患者に多大な恩恵をもたらしている。しかし、それに伴う医療費の枠がなく、技術料等の実質的な面が据置にされて、材料費等の差額の引き締めが続いている。勿論、材料費、薬剤の差額の適正化も大切であるが、差額で人件費の上昇を補う時代は終わったと思う。人件費増の技術料にスライドされるシステムを作らないと健全な透析医療が守れないと思う。

透析医療の妥当性を広く認識して頂くために、医師の裁量権は十分に認められるべきであるが、誤解を招きかねない選択を是正するように、今後日本透析医会は指導性を発揮する必要がある

と思う。

災害時のためのアンケート調査及び患者登録という膨大な仕事をされて、大いに評価されているが、アンケート調査は、日本透析療法学会などと重なることがあるので早急に1本化して負担を少なくして欲しい。

透析患者の高齢化に伴い要介護の患者が増えている。要介護の患者の通院、更に入院の問題は1施設では解決されない問題である。全腎協も1月に愛知で「要介護問題を考える」のシンポジウムを開いた。この問題は日本透析医会も医実態調査して、関係団体と一緒にやり、対策を検討して頂きたい。

以上の点について、5周年にあたりあらためて日本透析医会にお願いしたい。